

「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」開催概要

- 1 開催日時 令和6年2月9日（金）午後1時30分～午後3時30分
- 2 開催場所 県庁議会棟ほか（オンラインによる開催）
- 3 出席者
＜参加学生＞
○信州大学1名、佐久大学6名、清泉女学院大学3名、長野保健医療大学2名、飯田短期大学2名 計14名
○佐々木 祥二議長、埋橋 茂人副議長
○広報委員 丸茂 岳人議員、林 和明議員、グレート無茶議員、勝山 秀夫議員、藤岡 義英議員
- 4 開催内容 意見交換・懇談、意見・感想等の発表
- 5 意見交換会テーマ
＜Aグループ＞
「長野県の将来について」、「長野県の観光について」、「東京一極集中について」
＜Bグループ＞
「地域防災について」、「子育て支援・高齢化に伴う問題について」、「東京一極集中について」
＜Cグループ＞
「地域防災について」、「地域における「場づくり」について」、「東京一極集中について」



○開会

(司会：埋橋副議長)

皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から、「『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会」を開会いたします。

私は、本日の司会を務めます、長野県議会副議長で、議会広報委員会委員長の埋橋茂人でございます。どうぞよろしく申し上げます。

○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(埋橋副議長)

それでは、長野県議会を代表いたしまして、佐々木祥二議長から挨拶及び県政報告を申し上げます。佐々木議長、よろしく申し上げます。

(佐々木議長)

皆さん、こんにちは。長野県議会議長の佐々木祥二でございます。

本日は、『こんにちは県議会です』を開催いたしましたところ、皆様には、大変お忙しい中、御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

私たち長野県下の23選挙区から選出されました議員で構成する県議会には、県民の皆様の思いや考えを県政に反映させたり、県政の適正な執行を監視するという役割があります。

本日は、皆様が日々の学びや生活の中で感じていること、また、考えていることなど、長野県に関することにつきまして、率直な意見交換ができればと、参加議員一同、大変楽しみにしております。

意見交換に先立ち、せっかくの機会でございますので、少し時間をいただきまして、最近の県議会の主な取組などについて、御紹介したいと思っております。

初めに、県議会と県内大学との包括連携協定についてでございます。

県議会と県内の大学や短期大学とが、一緒になって地域課題の解決や魅力ある地域づくり、人材の育成を進めることを目的といたしまして、連携協定の締結を進めてきております。

令和元年から始まり、これまで、8大学・3短期大学と締結をさせていただいております。

本日、御参加いただいている学生の皆さんの学校とは、すでに結んでいたりと、まだ結んでいなかったりと状況は様々でございます。今後も、大学や短期大学の皆さんと協力させていただきながら、目的に沿った取組を進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、最近の県議会の主な取組を紹介させていただきます。

本県の総人口は2000年の221万5千人をピークに減少が続いております。この2月にも200万人を下回るのではないかと報道がありました。県の人口が100万人台になるのは、1973年以来、なんと51年ぶりでございます。

少子化や人口減少は本県の将来を左右する重要な課題であります。長野県議会といたしましても、令和3年度に「県民の希望をかなえる少子化対策の推進に関する条例」を制定するなど、少子化や人口減少の課題に取り組んでまいりました。

さらに、その取組を加速させるために、昨年6月には、「少子化・人口減少対策調査特別委員会」を設置させていただきました。今後、行政としての取組状況の調査や、少子化・人口減少対策に係る必要な提言を行うなど、知事とともに協力をさせていただきながら、この課題に対して全国のトップランナーとなるよう取り組んでまいり所存でございます。

参加者の皆さんには、本日の意見交換会を契機に、一層、県議会や県政への関心を深めていただき、「自分自身が長野県づくりに参加する」という気持ちを持っていただくことを御期待しております。

本日は、どうぞよろしくお願いをいたします。

○出席議員自己紹介

(埋橋副議長)

それでは、本日の出席議員から自己紹介をいたします。では、順次、私から指名しますので、お願いします。

県議会広報委員会副委員長の丸茂岳人議員。

(丸茂議員)

こんにちは。今日はよろしくお願いいいたします。

(埋橋副議長)

続きまして、広報委員の林和明議員。

(林議員)

林和明と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。

(埋橋副議長)

次に、グレート無茶議員。

(グレート無茶議員)

グレート無茶でございます。よろしくお願いいいたします。

(埋橋副議長)

次に、勝山秀夫議員。

(勝山議員)

皆さんこんにちは。勝山秀夫でございます。本日はお世話になります。よろしくお願いいたします。

(埋橋副議長)

最後に、藤岡義英議員。

(藤岡議員)

藤岡です。よろしくお願いいたします。

(埋橋副議長)

出席議員の紹介は以上であります。

今回参加いただいた学生の皆様につきましては、恐れ入りますが、先日、メールにより配付しました名簿により御紹介に代えさせていただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○進行方法の説明

(埋橋副議長)

では、次に意見交換の進行方法について御説明します。

これから3つのグループに分かれて意見交換を行います。グループでの意見交換の時間は、80分を予定しております。進行は各グループの議員が行いますので、御協力をお願いします。

最初の70分間は、グループごとに学生の皆さんから出された2つのテーマについて意見交換をお願いします。1つのテーマを35分程度で進めさせていただきたいと思っております。残り10分になりましたら、私ども議会から学生の皆さんにお聞きしたいテーマについて意見交換をお願いします。残り時間は画面右上に表示されますので、参考としてください。

意見交換の後、各グループで出た意見等について学生の代表者から発表していただくとともに、進行役以外の議員からも、一言感想を述べていただきたいと思います。この発表時間は、学生、議員合わせて6分程度をお願いします。グループごとの意見交換が終了しましたら、最後に全体での意見交換を行います。

意見交換の進行についての説明は以上です。

なお、本日実施した内容については、録音、録画させていただき、概要を文書で取りまとめ、写真等とともに後日、県議会のホームページに掲載するなど、議会広報に活用させていただきますので、よろ

しくお願いいたします。

また、今回はオンラインということで、万全の準備をしておりますが、場合によっては御不便をおかけすることがあるかもしれませんが、皆様の御理解と御協力をお願いします。

それでは、意見交換を始めます。事務局でグループ分けを行ってください。

○意見交換・懇談（A～Cの3グループに分かれて 80分）

○意見・感想等の発表

（埋橋副議長）

グループディスカッション、お疲れ様でございました。

それでは、各グループごとに6分程度で、発表担当の学生さんとそれぞれの議員から意見交換の内容、感想を発表してください。

それでは、Aグループから、発表担当の学生さん、お願いします。

（Aグループ学生）

Aグループは、大きく分けて二つの議題について話をしました。

まず一つ目としましては、「長野県の将来について」ということで、またそこから細かく3つの議題に分けながら話し合いをしました。

一つ目としては長野県で働くメリットとは何だろうという話をしました。実際、大学卒業とともに長野県から東京などに出て行ってしまったり、長野県で働く魅力は何だろうというのをそれぞれ学生と議員さんと話をさせていただきました。長野県から出て行ってしまったり原因としては、東京の方が賃金が高いところや、東京の交通手段の多さや華々しさに惹かれて若者が出て行ってしまったりではないか。また、企業の多さなどを魅力的に感じて東京に出て行ってしまったり人が多いのではないかという意見が出ました。

そういったところから、どうしたら長野県でもっと若者が働きたくなるかということで、長野県から出て行ってしまったり分、県外から若者をもっと引っ張ってこようという意見が出されました。そのためには、外部から長野県に来ていただいたときに、こういういいところがあるとしっかり感じてもらえるような魅力の発信であるとか、長野県の企業のいいところをもっと知ってもらおうという意見が出ました。

また、議員の方から実際に若い女性が長野県から出て行ってしまったり帰ってこないという現状があるというお話をいただいて、そういったことから出生率が低くなってしまったり結果的に長野県の人口減少につながってしまったりするので、そういったことを食い止めるためにももっと魅力を伝えるのが大切なのではないかという意見に落ち着きました。

続いて、50年後の長野県はどうなってしまうのかという話をさせてもらったのですが、これから50年先を考えるに当たって、今までの50年間の中で何があったのかという事実としては、オリンピックや大きな災害などがあったように、これから50年間はどうか、どうしていききたいのかという話をしていきました。その中で、先ほどの話と通ずるものがあるのですが、やはり長野県から人が出て行ってしまうということであったりとか、もっと長野県に人が来てほしいという話をさせてもらいました。そういった中で、もっと長野県で安心して住み続けられる街づくりをしていくために、福利厚生を整えていく必要があるのではないかという意見や、年金や子供の福祉といったことをサポートしていく必要があるのではないか、県外から長野県への引越し代を支援してあげるといった生活面のサポートを充実していくべきではないかという意見が出ました。

続いて3つ目、最後は、県政に興味をもってもらう方法ということで、県の政治に若者の興味があまりないということであったり、選挙に行かないとか、そういった問題が挙げられていて、その問題をどのように解決していくかということですが、今回の県議会の取組のような若者や学生と議員の方が直接お話ししたりとか、関わる機会がもっとあるといいのではないかという意見が出ました。

実際に、議会と若者が少し距離をとってしまっているのではないかと感じる方が多くて、議員の方は議員の方で、なんで若者がもっと来てくれないのかと思っていたとか、若者は若者で議員の方に少し距離を置いてしまったりとか、お互いがそう感じてしまっているということがあるので、お互いがもっと歩み寄っていくために直接コミュニケーションがとれる機会があるとよいのではないかという意見が出ました。

また、投票をもっとしていききたいという話で、他の自治体の取組として、投票済証を取り入れている自治体があるそうで、実際に投票するとそういう紙がもらえて、それをコレクションしていったりとか、そういった方法を取り入れていっても面白いのではないかという意見が出たり、その紙が缶バッジになったりだとか、そういったことを取り入れていくともっとよくなるのではないかという案が出ました。そういったところで、長野県の将来についてのお話は一旦まとめました。

続いて、長野県の観光についてのお話もありました。そこでは、どのようにしたら若者に長野県に興味をもってもらえるかということで話が進んでいきました。

まず、若者がどのようなことで長野県に魅力を感じるかという点としては、やはり登山であったりスキーであったり、あとは、東京からのアクセスがよかったりとか、そういったところでの良さといった魅力が挙げられました。

そういった中でも、やはり若者自体が観光をしないということであったり、長野県は魅力がたくさんあるけれども、若者がその魅力を感じないとか、実際に行こうとは思わないとか、そういったことが原因としてあるのではないかとといったことが挙げられました。若者が興味を持つ発信の仕方として、もっとSNSを充実するというところであったり、長野県でもターゲット層に分けた取組というのを様々されていると思うが、そこをもっと充実させていくことが大切なのではないかという意見が挙げられました。以上、長野県の観光についてのお話しでした。

最後、東京一極集中についてのテーマですが、一極集中は良いことなのか悪いことなのかという二手に分かれまして、しょうがないという意見と、一極集中はだめだという意見が出されました。

しょうがないと思う意見としては、やはり日本が世界で戦っていくためには、どこかで一つ力を費やすところがないと、お金をかけたりであるとか、専門的な企業のようなところがないと世界で戦っていけないという現実があるのではないかとか、実際に大学や企業が集まっている東京に集中するのはしょうがないという意見がありました。

ただ、一方で、絶対に良くないという意見としては、一極集中で集まっている分、そこで災害が起きたりするとすべて崩れてしまうとか、もっと分散していく工夫が必要なのではないかという意見が出ました。重要なものをしっかり保って、文化を続けていくためには、それなりに工夫が必要なのではないかということで、実際に文化庁が京都に移ったとか、そういう事例が挙げられて、そういった柔軟な分散型の思考が必要なのではないかという意見がありました。このような意見がAグループでは出ました。以上です。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。では、林議員お願いします。

(林議員)

今、学生さんの方からも事細かに詳細を全て語っていただいたので、私からはあまりないですけども、今、おっしゃっていただいたように、学生の皆さん、若い世代ならではの新しい発想で御提案いただきました。今回学生さんの方から若い世代が県政に関心を高める方法ということで御提案いただいたのですけれども、やはり若い世代が政治に、政治家に期待したいと思えるような政治の在り方というのをまた改めて考える機会になったなと思いますので、これからも気軽に政治に対して期待してもらいたいと思っております。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。それでは、Bグループに移ります。お願いいたします。

(Bグループ学生)

私たちBグループでは、主に三つの話題について話しました。

一つ目、地域防災についてですけれども、私たちの大学の学部で実習に行った、台風19号災害に遭った佐久市入沢地区というところの、自主防災組織であったり、地域防災に力を入れているという話をまず話題として出させていただきました。

そこから、自分の地域の防災活動の現状と、地域で取り入れるとよい防災活動についてというお話を提起させていただきました。そこで皆さんから出されたのは、まず、自分の地域や地区では、避難訓練

とかをあまりやったことがないという声を聞きました。そこで、地域防災の現状としては、地域や地区での避難訓練などの活動が少ないということと、今後地域で取り入れるとよい防災活動については、避難訓練の場所を確認したりとか、地区での活動を災害時どうすればよいかというのを皆で知るところも含めて、活動を増やすということと、具体例として、介護が必要な人とか、高齢者への対応とかも必要ですし、妊娠している人やお子さんへの対応支援であったり、実際に、災害時の感染対策ということも挙げられると思うので、そういう面でも大切だという意見が出されました。

また、実際に災害が起きてからのことも話に上がって、一時避難場所には大勢入ってきて、まずそこから、災害弱者であるとか、カテゴリー別に被災者をスムーズに分けるということも大事だし、物資の支援とかをどうするか、また、断水とか電気も今回の能登地震の時にも話題になりましたし、そこも備えることが大切だということも話に上がりました。

また、身近なことで言うと地区の消防団とか地域間でのコミュニティの関わりというのも今後大切にしなければいけないことの一つだということも感じました。

次の話題として、子育て支援ではどういう対策が必要かということも話題に上がりました。そこで大きく皆さんが話に上げられたのが、経済面での負担が多いということです。そこでどういう対策が必要かというのは、まずお金の面を手厚くして、経済的に負担が大きい人に支援をする点や、具体的に言うと、育児の費用とか子育て支援の延長とか、給食費を無償化するというのも大事だし、大学までの教育費の確保を今後考えていってもいいのではないかという意見も出ました。

三つ目の話題として、高齢化の話題ですけれども、高齢者の運転について、事故が多発していて、免許を返納した方がいいのではないかとということもありましたし、特に過疎地域では、バスが減ってきているという面でも、今後、配車サービスとかデマンドタクシーも活用していくことがいいのではないかとということも上がりました。配車サービスとかは、スマホのアプリで手配するのが今は主流となっているのですが、それだと高齢者は難しいのではないかとということと、手軽に電話とか、あえて紙を使って、地域の高齢者の方に、こういうサービスがありますよということを知らせるといいうのも大事なのではないかということも話題に上がりました。

最後に、東京一極集中についてですけれども、東京はすごく環境が整っていて、魅力があっていいというメリットもあり、大学とかも多いから若者が都会に行ってしまうんですが、でもそれを防ぐためにも、まず自分たちの地域の魅力を発信するというのも大事だし、大学を首都圏ではなく地方にも広げていって、専門分野を学べる場所であったり、働ける場所を地方にも多く作ることが、一極集中を防ぐことにもつながるのではないかという話が上がりました。

また、今日もこうしてズームでやっているように、テレワークなどを今後活用して、東京とか都会に行かなくても、自宅からであったり地元からテレワークなどを通じて、学校や会社へ行かなくても、個人で繋いでできるような働き方であったり、勉強の仕方を見出すことが、今後できるのではないかという話に上がりました。

Bグループでの話はこのような感じです。以上です。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。では、藤岡議員お願いします。

(藤岡議員)

参加して感じたのは、大学で専門分野を学ばれている学生さんでしたので、自分たちの視点でテーマについて一つ一つ真剣に深く話されていたことが印象的でした。同時に、政治とか、自分たちと違う分野のことは、皆さん初めてのZoomの交流だったので遠慮されている感じがあったのですが、探求心がある皆さんなので、政治や社会など違った分野のことにも目を向けていただいて、また自分たちの専門分野にも振り返って考えていただければ、さらにもっと広い視野でいろいろなことに問題意識を持てるのではないかと思います。逆に私はどの分野も詳しくなかったもので、いろいろと教えていただけたのと、あと、グループの学生の皆さんが女性だったので、女性の視点でいろいろ話されていたのが、自分たち男性の視点で足りない部分を違った視点で考えているのだなと感じました。大変有意義な時間でした。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

では、Cグループの発表担当の学生さん、お願いします。

(Cグループ学生)

Cグループでも、大きく分けて三つのことについて話し合いました。

一つ目は、地域防災について、防災意識を議題にして話していきました。防災意識を高めるために、どのような活動をしていけばよいのかという話になったときに、避難訓練をやっていけばいいのではないかという意見があったのですが、避難訓練は、高齢者の方がその現場まで向かうのが難しいことがあるという意見が出ました。他にも、防災について知らない人が多いので、一般の人に防災意識を高めるための知識をつけていく難しさということでの話をしました。

次に、大人と話せる場を設けることについて話しました。大人と話す機会が、自分たちのことを考えてみたらまったくないという状況で、議員さんとかの話の聞くと、大人たちは若い人たちの意見を聞きたいということであったり、若い人たちを歓迎する態勢ができているということなのではあるのですが、そういう機会がまだあまりないということでした。それと、大人と子供たちでは意見が違うということであったり、あとは、学生とかが行動していけば大人たちも応えてくれるということが話題として出ました。

最後、東京一極集中についてですけど、自分たちのグループでは、結構地元に残りたいという人が多くいるということであったり、議員さんの話でも、地元に残りたいという人が多くいるという話だったので、議員さんから見ると、長野県の雰囲気は堅苦しいところがあるということであったり、

東京から戻ってきにくい雰囲気が少しあるのかなという話をされていたので、そういったことについて考えていきました。短いですが、これで終わります。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。本当に御熱心に自分たちの問題にいろいろな見解をいただいてありがとうございました。次に勝山議員をお願いします。

(勝山議員)

ありがとうございます。感想を述べさせていただきます。

最初に地域の防災について、防災意識の低い人と高い人のギャップを埋めるには自分たちはどうすればいいかということについて議論をさせていただきました。そういう角度で意識の高い学生さんと議論ができたことは意義があったと思います。

次の話題として、大人と話せる場所が欲しいということで、意見交換をして、自分を深めたいということや、もっともっと探求したい、いろいろな人と会って、いろいろな情報が知りたいとか、積極的に自分からコミュニケーションをとって自分を高めたいという意識が高くて、正直感動しました。そこから少し脱線した話ですが、大学間でもっともっと交流できたらいいとか、あと自分で学んでいることを話し合えたりとか、文化祭に招待し合ったりとか、学業で困ったことのあるあるを学生同士で話し合えたりとか、そういったことが実現できたら面白いなと感じました。

東京一極集中の話ですが、私のグループの皆さんは、ほぼ地元に残りたいとか、地元に戻ってきたいということで、どうしてかなと理由を聞いたら、家族が好きなんだと、家族の仲がよくて困ったら家族に助けてもらいたいとか、家族と一緒にいたいんだなということを感じました。

あとは、飯田に住んでいる方で、飯田の市長さんや薬剤師さんとか大人といろいろ話して、話を聞いて、この地域に貢献したいというのがあって、地元愛が芽生えたんだなと思って、すごく意識の高い学生さんと話をさせていただいてとても参考になりました。ありがとうございました。

(埋橋副議長)

ありがとうございました。これで3グループの学生さんと議員からの意見集約を終わらせていただきます。

○議長所感

(埋橋副議長)

最後に、佐々木議長から、今回の意見交換を踏まえての感想とお礼の御挨拶を申し上げます。

佐々木議長、お願いします。

(佐々木議長)

今日はありがとうございました。本日は、限られた時間の中で、活発な意見交換ができたことに誠に感謝申し上げる次第です。皆さんの様々な思いや考えを聞くことができ、大変有意義な時間だったかなと思いました。

私が参加しましたグループでは、長野県の将来について、長野県の観光についてをテーマに意見交換をさせていただきましたが、これはまさに、県議会としても最優先に考えていかなければならないテーマの一つでありました。私たち議員も、日々考えておりますが、本日、若い世代の皆さんの御意見をお聞きする中で、いくつもの新しい「気づき」を与えていただきました。人口減少が進む中にあっても、若者や女性から選ばれる活力のある長野県として持続発展させていくため、しっかり、これからも取り組んでまいり所存であります。

そうしたことから、私たち議員は、本日、いただいた意見や視点を受け止めまして、大いに参考にさせていただきます、今後の議会活動に活かしてまいりたいと思っております。

皆さんには本日をきっかけとして、県議会、県政に一層関心を持っていただくことを御期待いたしますとともに、前途有望な皆様のこれからの御活躍を御祈念申し上げまして、お礼の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

(埋橋副議長)

佐々木議長、ありがとうございました。

○閉会

(埋橋副議長)

今日はたまたま信濃毎日新聞の朝刊で「私の防災対策と提言」ということで記事が出ているので、御覧になったと思いますけれども、タイムリーな議題になりました。ありがとうございました。

以上をもちまして、『こんにちは県議会です』大学生との意見交換会を終了いたします。

学生の皆様におかれましては、長時間にわたり熱心に御参加いただき、ありがとうございました。